早稲田大学本庄高等学院
2022年度 I選抜

基礎学力試験 (国語)
(問題)

2022年度

<R04160062>

注意事項

1. 問題冊子および解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
 2. 問題は2～5ページに記載されている。問題冊子や解答用紙の印刷が不鮮明であったり、ページが抜けていたり、汚れていたりしている場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
 3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
 4. 受験番号および氏名は、試験が始まってから、解答用紙の所定欄(2か所)に正確に正しいに記入すること。
- 読みづらい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

数字見本
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9

5. 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 試験終了の指示がでたら、ただちに筆記具を置くこと。終了の指示に従わない場合は、答案のすべてを無効とするので注意すること。
7. いかなる場合でも、解答用紙は提出すること。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

(一) 次の傍線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

1	練習不足を <u>嘆く</u>	2	歳末の大 <u>売り出し</u>
3	前例を <u>踏襲</u> する	4	盤石の態勢で <u>臨む</u>
5	公務執行 <u>妨害</u>		

(二) 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

1	ゲン <u>コウ</u> 用紙に清書する	2	ぶ <u>どう</u> ガリの季節
3	プロに <u>ビツ</u> テキする実力	4	ゆ <u>つ</u> くりオンセンにつかる
5	良好な <u>関係</u> をイジする	6	セ <u>ミ</u> のヨウ <u>チ</u> エウ
7	トウロ <u>ン</u> 会を開く	8	カ <u>プ</u> ヌシ総会に参加する
9	オ <u>ニ</u> の目にも涙	10	試合に負けてク <u>ヤ</u> しい
11	メズラ <u>シ</u> い植物	12	メン <u>ミ</u> ツな計画を立てる
13	荷物をトド <u>ける</u>	14	ツウヤクの仕事
15	幸せなバン <u>ネ</u> ンを送った		

(三) 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

二〇世紀のイギリスの著名な作曲家ベンジャミン・ブリテンは、一九五六年にアジア旅行の最後の訪問地として日本を訪れて、雅楽や能などの伝統音楽を初めて聴き、「日本の音楽は、私がこれまでに聴いたものの中で最も奇妙だ。しかし、非常に強心に残り、そして、美しい」(一九五六年三月二十七日付、ハンフリー・サール宛の手紙)

と、記しています。ブリテンは、初めて聴くその音楽の異質さに新鮮な驚きを感じて、強く心をひかれたようです。

異質な音楽は、A、遠い異国だけにあるわけではありません。同じ西洋の音楽であっても、例えば、この本の第一章で説明されるような中世の単旋聖歌B、グレゴリオ聖歌は、私たちが耳にする機会の多いクラシック音楽——主として、一八世紀後期から一九世紀の作曲家たち(ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、ショパン、ヴァーグナーなど)の曲——とは、ようすがまったく違う音楽です。タイムマシンに乗って何世紀も時をさかのほれば、そこには現代の人々にとってIの薄い文化があり、聴きなれない音楽があるのです。

しかし、中世の単旋聖歌のような「奇妙な」音楽は、はるかに遠い過去の音楽ではあっても、西洋の人々にとつては、じつのところ、異境の音楽ではありません。ですから、それを異国の文化の音楽と同じように単に「異質な音楽」としてしまうのは、乱暴すぎるかもしれません。つまり、中世の単旋聖歌は、西洋音楽の起源(あるいは、初期の一段階)なのであって、現在の私たちが聴きなれている西洋音楽は、この起源から発して一連のさまざまな変化をたどった結果としてあるのです

から、そこには、C、河の源流と下流のような、ひと続きのつながりがあります。

西洋の古代から現代までの各時代には(他の文明の場合でもそうなのですが)、それぞれに異なる音楽様式(音楽の姿)が形成されてきました。各時代の音楽様式は、前後の時代の様式と、D、時を隔てた他の時代の様式とも強いかわりをもっていて、そうしたかわりが「西洋の音楽文化」の過去から現在までの連続性とまともを作り出しています。中世の単旋聖歌とベートーヴェンの交響曲は、どちらも、そうしたひとつの同じまとも「西洋の音楽伝統」の上にあるのです。

とはいえ、この西洋の音楽伝統がこれまでに経てきたいくつもの時代の音楽様式は、一つ一つが、時代ごとに異なる音楽観、価値観、美意識、聴き方、社会的・文化的状況などを映した、きわだった独自性を具もえています。各時代に、他の時代とは異なった、その時代の音楽の様式と文化があるのです。

各時代の音楽は、たがいに独立していると同時につながりもいる。このことは、「音楽史」という物語を描こうとするとときに、二つの異なった姿勢が可能であることを示しています。ひとつは、「つながり」を大切にして、源流から現在の私たちになじみの音楽様式に向かつてくるひと続きの流れとして見る¹こと。そしてもうひとつは、各時代の音楽様式の独自性を尊重して、たがいに異なる独立したいくつもの音楽様式の交替として見る²ことです。

前者の立場をとれば、「音楽史」は、現在の音楽様式がその源流からどのように成立してきたか、その「過程」を述べる物語になります。音楽にかぎらず一般的にどのようなものごとに関してもいえることなのですが、何かができてくる「過程」を見るときは、つねに、「できあがりのかたち」(最終的なかたち)が頭の中にあり、そこからさかのぼって、それがどのような起源からどのような諸段階を経て、どのようにできてきたのかを観察することになります。「音楽史」の場合、「できあがりのかたち」とは、現在の私たちがなじんでいる音楽様式です(これから何十年かたてばそれはまた変化してしまうでしょうから、けっして最終的なかたちとはいえませんが、とりあえず、今の私たちにあってはそれが「できあがったかたち」です²)。そして、中世の単旋聖歌という「起源」と現代の音楽様式との間にあるいくつもの時代の音楽様式はすべて、この「できあがったかたち」に至る過程の上にある途中の段階としてみられることになります。

そこでは、現代の音楽様式を構成しているいろいろな要素の中のどの要素が、どの段階で(どの時代の音楽様式に)姿を現したのかということが重視されます。そして、各時代の音楽様式は、そういった関心から観察される。つまり、過去のさまざまな音楽様式は、それぞれの独自性によってではなく、現在の音楽様式とのかかわりつつなりの度合い(あるいは、共通性)によって理解され、意味づけられることになります。

それに対して、「音楽史」についてのもう一方の立場、すなわち、たがいに異なる独立したいくつもの音楽様式の交替というふうに見る場合には、現在の音楽様式とつながりはそれほど重要ではありません。この見方の土台となっている考えは、次のようなものです。つまり、過去の各時代の音楽とその文化は、それ自体として価値をもち、それ自体として理解されるべきだ、という考えです。

私たちに私たちの音楽と文化があるように、過去の時代には、それぞれの時代にそれぞれの音楽と文化があります。それらの間には、とうぜん、さまざまなかわりや共通性があるのですが、一

つ一つはそれ自体の価値をもった独自の存在であって、けっして「途中の段階」ではない。

こうした見方に基づいた「音楽史」の物語は、いくつもの独立した音楽様式の鎖のような連なりとして描かれることとなります。そして、この「ものがたり西洋音楽史」³は、まさにこのような見方から書かれた物語です。したがってここでは、前後の時代とのかかわりを意識しながらも、それぞれの時代の音楽様式の特徴と特質を描きだすことが中心になっています。

私たちが聴きなれている音楽の起源をたずねて、過去の音楽の中に現在の音楽の萌芽や部分的なかけらを探しだそうとするのではなく、各時代の音楽と音楽文化をできるかぎりそれ自体としてとらえ、理解すること。そうすることによって、西洋音楽というひとつの音楽伝統が、いくつもの「異質な音楽」から成り立っていることがはっきりと意識されるでしょうし、西洋音楽文化の豊かな多様性とそれがもっているさまざまな価値が見えてくるでしょう。

ブリテンはアジアにはるばる旅して異文化の音楽に出会ったわけですが、この西洋音楽史の物語の読者も、さまざまに異なった過去の音楽との出会いに、きつと、新鮮な驚きを味わうことでしょう。

(近藤譲「ものがたり西洋音楽史」による)

問1 空欄

A

D

に入るべき語句をそれぞれ次の中から選んで記号で答えなさい。

ア なにも イ あるいは ウ いわゆる エ いわば

問2 空欄

I

に入るべき語句を次の中から選んで記号で答えなさい。

ア 色あい イ なじみ ウ かけ

問3 傍線部1「各時代の音楽様式の独自性を尊重して、たがいに異なる独立したいくつもの音楽

様式の交替として見る」とはどのような考えに基づいているのか。それを述べている五十字以内の箇所を本文中から探し、その始めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

問4 傍線部2「中世の単旋聖歌という「起源」と現代の音楽様式との間にあるいくつもの時代の

音楽様式はすべて、この「できあがったかたち」に至る過程の上にある途中の段階としてみられることとなります」とあるが、「途中の段階としてみられる」とはどのようなことを述べているのか。本文中の語句を用いて七十字以内で答えなさい。

問5

傍線部3「この『ものがたり西洋音楽史』は、まさにこのような見方から書かれた物語で
す」とあるが、筆者が「このような見方から書くこと」によって期待しているのはどのような
ことか。最も適切なものを次の中から選んで記号で答えなさい。

ア 日本を訪れて、初めて聴いた雅楽や能などの伝統音楽の異質さに新鮮な驚きを感じ、強く
心をひかれたベンジャミン・ブリテンと同じように、異文化の音楽と出会うために実際に西
洋へと旅をすること。

イ ベートーヴェンの交響曲こそが、その音楽観や価値観、美意識において、さまざまな時代
の聴き方や社会的・文化的状況などを映し、西洋のすべての音楽様式の起源になっているの
を理解すること。

ウ 西洋音楽というひとつの音楽伝統が、いくつもの過去の音楽様式から成り立っていること
がはつきりと意識され、西洋音楽文化の豊かな多様性とそれがもっているさまざまな価値が
見えてくること。

エ 私たちが耳にする機会の多いクラシック音楽、主として一八世紀後期から一九世紀の作曲
家たちによる曲と、それとはようすがまったく違う中世の単旋聖歌との間に、鎖のような連
なりが描かれること。

〔以下余白〕